

各地のロボット大会をご紹介!!

今回は、この夏に各地で開催されたロボット大会の様子をご紹介します。それぞれ白熱した大会となりました。

8月6日(日)開催! ERC2017(@大阪)

大阪近郊の7教室から、50名の生徒さんが参加。競技はレベル別に、個人戦の「チャレンジコース」、対戦型の「アドバンスコース」の2種類。一人一台のロボットを、大会当日までに作成しました。

※ERCとはエジソンアカデミーロボコミュニティの略です



自分のエリアと同じ色のブロックをセットします。



向かい合ってロボットの準備。試合開始を待ちます。



競技時間は45秒。時間との闘いにもなります。



どのように進んでゴールするか発表してもらいました。



みんなが見守る中、ロボットが出発!



赤色のブロックを上手く避けながら、白色のブロックを回収します。

「チャレンジコース」

コース上に設置された白色のブロックを回収する自走式ロボットで、得点を競います。赤色のブロックを回収してしまったり、デッドゾーンを通過するとマイナス得点になるため、ロボットがゴールに辿り着くまで目が離せません。

「アドバンスコース」

コース中央の得点エリアに、手持ちの10個のブロックを飛ばして得点を競う対戦型の競技です。得点エリアの中央にブロックを置くこと

高得点になるため、各種センサーを使ったコントロール重視のロボットが多く見られました。



よ〜くブロックタワーを狙って...



ブロックの弾(黒色)が、ブロックタワーにヒット!



ブロックタワーが倒れると大きな歓声が上がりました。



本番ギリギリまで、念入りに調整。



本番前のプレゼンテーション、気合が伝わってきます。



無事にゴール!審判も合格の白旗を掲げています。

「ライト付き自動車コントロール」

チームであらかじめ決めたマス目、4カ所に停止させます。高得点を狙って難しいコースを選ぶ戦いも見どころでした。



8月27日(日)開催! 明光Vロボカップ(@福岡)

福岡、佐賀、熊本、山口から16教室、54名の生徒さんが参加。競技は「ライト付き自動車コントロール」と「ブロックタワーくずし」の2種類。2名もしくは3名でチームを組んで、各競技に取り組みました。

「ブロックタワーくずし」

制限時間30秒以内に、ブロックの弾(黒色)を使って、ブロックのタワーを倒すと得点。ロボットは、据え置き型か、操作型かを選べることができます。確実に当たると、弾を1個ずつ投げるロボットや、たくさん倒すためにまとめて弾を投げるロボットなど、工夫された様々なロボットが見られました。

みなさんの作品を募集中

授業で作ったロボットを発表するチャンス!写真と、ロボットの特長などを以下のアドレス宛に送ってください。

artec-os@artec-kk.co.jp
※件名に「エジソン通信 作品紹介係」と入れてください。

発明偉人伝 Vol.6 トーマス・A・エジソン

〜1847年2月11日生まれ〜
エジソンは、幼少の頃からひどい難聴(聴力が弱いこと)でした。しょうじく熱熱という病気の後遺症が原因でした。13歳になってからは、小鳥のさえずる小さな声は、もう聞こえませんでした。でも大人になったエジソンは難聴を「形のない宝物」と呼びました。そしてエジソンは、こう言います。「音に感ずられることなく考える事ができる、いつでも静かな環境

で眠ることができる。俗人と交わることもなく、退屈極まりない社会的な関りに背を向ける口実ができたし、いたって生産的な思考ができるようになった。仕事の上では口約束や耳約束ができないため、必ず書面で契約することにしたため、不必要な問題からしばしば解放された。聴力の異常を感じ始めた頃は読書に没頭した。今では雑音が耳に入らないことを幸運だと思っている。」と...。ハンデととらえるか、宝物ととらえるか、みなさんはどのような時、どう考えますか?

Quiz Artec Edison Academy

1から20の間で足りない数字は?

Vol.7(7月号)クイズの答え:15

※答えは次号で発表します。